2012年6月21日　公の精神でつながるコミュニティー「一志会」の第10回例会が開催され、ゲストに中川勝弘氏(元トヨタ自動車副社長・副会長、元通産省通商産業審議官)をお迎えし、「グローバル・マネジメント」についての講話をいただきました。

「公の精神」を持ち積極的に社会との関わりをもって責任を果たしていこうとの想いを共有する大企業経営者の会員制”コミュニティー”である「一志会」の第10回例会を、6月21日に開催しました。
今回は、長年にわたり官僚として政府間交渉や民間経営者として海外事業展開や外国企業とのビジネスに深く関わってきた中川勝弘氏(国際経済研究所代表取締役理事長、元トヨタ自動車副社長・副会長、元通産省通商産業審議官)をゲストにお招きして、グローバル時代の企業経営の要諦についてお話しを伺いました。

中川氏は、「グローバル・マネジメント･･･日本の常識は、世界の非常識（？）･･･」というテーマで、(1)論理で勝負、感情を混ぜるな、(2)お上は偉い（？）、お上は必要悪（？）、(3)日本人はいつから草食人種に、(4)「誇り」をもって、グローバルに働け、と4つのポイントに整理されてお話しされましたが、全てご自身の経験、内外有力者・識者との幅広い交流を踏まえた事例を挙げての具体的なお話しだけに、大変刺激的で、迫力がありました。
話しは、海外との関わりがますます大きくならざるをえない中において、「本音で議論することがいかに大切か」「何もしないことはそのこと自体が悪いことである」「物事を考えるときに、日本人はとかくネガティブなサイドからは発想しがちだが、ポジテイブな見方から発想すべき」「グローバルスタンダードは与えられるものではなくて、つくるものであり、都合が悪ければ変える取組をすべき」「スピード感が重要」なとど指摘された上で、これからの世界は「G7→G20」から「G 0(ゼロ)」の時代が続くと想定される中、政治の面でも経営の面でも日本が海外の常識を理解して交流を深め主体的な行動をとることが肝要であると語り、最後は、こういうときだからこそ若い皆さんに大いに期待したい、と締めくくられました。
中川氏は、一柳が尊敬する通産省の先輩であり、お互いにジョークを交える場面もあり、会場では和やかな雰囲気の中で、熱心に聞きいっており、その後の歓談タイムでゲストと積極的に意見を交わしていました。

食事をすすめながら、岩谷産業の廣田常務から、去る6月6日に新聞に掲載した同社・牧野社長名による電力危機に関する意見広告についての背景と反響についてホットなお話しがありました。
初参加の東日本旅客鉄道の赤石営業部長から自己紹介が行われた後、「メンバーから経営課題の材料を提供して貰い、参加者で率直な意見を交わして切磋琢磨し、各自の経営に活かそう」という趣旨で実施しているメンバースピーチとなりました。

今回は、宝印刷の堆社長から、主力事業である金融商品取引法関連、会社法関連の有価証券関係にかかる印刷事業が報告書の電子化、上場企業の減少などの環境変化にどう対応していくか、事業の多角化、国際化等を展開する場合の課題は何か、などをお話しいただきました。これを受けて、参加者から様々な切り口から意見が出されるとともに提案もなされ、お互いに学ぶところがあったと思います。
今回も、予定時刻を過ぎるまで交流が続き、賑やかなうちに閉会となりました。